



こーひーぶれいく

投稿

このさき地球は？ 政治主導の環境対策が大至急望まれる

小山田 日吉丸

Oyamada Hiyoshimaru

筆者はこの地球環境の年毎の悪化に心を痛めて過ぎてまいりました。悪化の原因はすべて大気中炭酸ガス濃度の増加に起因した温暖化によるものと思われまふ。その濃度は以前から専門家が危険レベルとして指摘していた 400 ppm を既に数年前に超えております。ヤフー検索によると、現在も炭酸ガスは年間 2 ppm 以上増え続けており、人間は 1,000 ppm の環境下では思考力、集中力が減退するとのこと。そのような状態になったらもうまともな社会生活を保つことなど全く不可能でしょう。そこでとりあえず 800 ppm あたりを限度とし、400 ppm を起点として年間 0.5% の増加率で計算してみると、そこまで到達するのにほぼ 140 年しかありません。因みに、600 ppm にはほぼ 80 年となり、1,000 ppm にはほぼ 185 年となります。400 ppm レベルの現在でさえわれわれが初めて経験するような異常気象の連続というのに、80 年後の 600 ppm レベルでの破滅的地球環境は想像もつきません。80 年などほんの一瞬の間です。現在の子供達に平穏な未来が期待できるのか本当に心配になります。それを避けることはわれわれ大人達の責任でもあります。たとえ炭酸ガスの排出量が減り始め、上昇の度合いが緩やかになってきても、下向きに変わるのにはこの先まだ何年もかかることを考えると、効果的な対策に大至急取り掛からなければこの地球はもう救われません。

直ちにやるべきことは、火力発電を大至急極限まで抑制し、稼働可能な代替方式を総動員しての発電に切り替えることでしょう。しかしながら、中には恒常性に欠けるものもあり、それらだけでは火力発電に十分には代わり得ないものと思われまふ。もう

議論している時間など全くありません。

一方、炭酸ガスの濃度はサインカーブを描きながら上昇しており、下がるのは樹木が緑を増す時期に一致していて、それもあり下がっております。したがって、いま直ちにやるべきことは人類総出で植林にとりかかることと思います。しかしそれには政治主導が絶対的に必要となり、政治家の方々の理解と積極性が要求されます。

他方、炭酸ガス処理技術の開発も緊急を要します。読売新聞（2013.11.7.）の記事によると、わが国では人工光合成の研究が行われているとのことですので、大々的な助成のもとでの完成が急がれます。過日のテレビ報道によると、ヨーロッパでは大気中の炭酸ガスを固定する技術が開発されたとか。その技術の普及も望まれます。温暖化が更に進んで、永久凍土の中に閉じ込められているといわれているメタンガス（温室効果が炭酸ガスより遥かに大きい）が大量に放出され始めたらもう打つ手はありません。最近のテレビ報道によれば、永久凍土の上の家が傾き始めている所も出てきており、2 月に NASA が永久凍土地帯でのガス噴出の画像を公表しております。とても恐ろしいことです。また、先日の国連環境計画本部からの発表では 2017 年の温室効果ガスの排出量が炭酸ガス換算で過去最大を記録したとのことでした。

人類にとってこの恐ろしい現実が目前に迫っている現在、それから脱却するための手段として優れたわが国の技術に立脚した原子力発電は緊急避難としてやむを得ないことでしょう。とは言えわが国では核アレルギーが強いことも筆者は十分に承知しております。したがって、このような現実のもとではラジオアイソトープの安全取扱いに習熟し、その有用性も危険性も十分に理解している私たちが待ったなしの危機的現状を的確に把握し、安全性に十分配慮したもとでの原子力発電の再開に理解を示す必要があります。一方では多面的な政治主導も絶対的に必要となります。

（元 癌研究会附属病院アイソトープ部長）